

令和4年度働く女性応援ネットワーク委員からの意見
第1回 (R4. 8. 30開催)

<p>(女性活躍の発信について)</p> <p>・「男女共同参画立県とくしまづくり賞」について、活躍している若い女性も表彰し、10代など若い世代のロールモデルを作ること検討してほしい。</p>
<p>(男性育休取得の促進について)</p> <p>・育休取得前に、どのような取り方がよいか考えるため、法制度の説明だけでなく、制度の意義やメリットなど、会社側からの説明が難しいところを、県など自治体で、学ぶ機会を作ってほしい。</p> <p>・県庁だけでなく、民間企業を含め徳島県に住む全ての男性を対象とした目標として、育休取得率を、国の目標に合わせて30%と設定してほしい。</p> <p>・まず現状把握して、それを市町村に情報提供しながら、民間企業・市町村を含めて男性育休を進めてほしい。</p> <p>・休むパパへの教育に対してうまくフォローしてもらえると、会社でスムーズに進むのではないか。</p>
<p>(就業中の女性のスキルアップについて)</p> <p>・就業中の女性に対する支援として、個人の意志に依存した「リカレント教育」だけでなく、企業と共に支援する「リスキリング」の観点で、企業に対して何か仕掛けを入れた方が、女性の活躍の場が広がっていくのではないか。</p> <p>・育児休業期間中など、忙しい育児の中でも、学びたい方が学べるような仕組みと機会があればいいと思う。</p>
<p>(企業へのテレワーク推進支援について)</p> <p>・「テレワークdeはぐくみ支援表彰」のように、取組を評価してくれることは大事。</p> <p>・社員の幸福度を測るようなアンケートをとって、それが高いところが表彰される、というような形になればいいと思う。</p> <p>・企業に対して、テレワークを進める中で、生産性が高まったことがわかるような発信を強化するなど、経営者がメリットを感じる何かを打ち出してほしい。</p> <p>・小さい事業所にとってテレワークの課題であるデジタル化について、ハード・ソフト含めて、もっと手厚く補助してほしい。</p>

第2回 (R5. 3. 17開催)

<p>(男女共同参画基本計画について)</p> <p>・2030年のSDGs達成に向けて、ジェンダー平等の視点で徳島県がどのように取り組んでいくか、しっかり把握していくべきである。</p> <p>・計画の効果検証について、もう少し強弱を付けて見直しを図ってはどうか。</p>
<p>(デジタル人材の育成について)</p> <p>・今は「女子は文系に進む」というようなアンコンシャス・バイアスがあるが、小学校、中学校、高校と、進路を決定する段階から、男女問わずデジタル分野への就職が視野に入るよう、ロールモデルを活用した意識啓発を行ってはどうか。</p> <p>・ものすごく高いレベルではなく、一歩ずつ頑張ったらできた、というモデルを示し、デジタルへの心理的なバリアを取り除くことも非常に大事である。</p>
<p>(プレパパ・プレママセミナーについて)</p> <p>・セミナーなどの情報発信を、市町村と連携し、母子手帳を手渡す際などに行ってはどうか。</p> <p>・開催回数や周期についても、対象者が参加しやすいよう検討してほしい。</p>

施策への反映状況等

<p>・「男女共同参画立県とくしまづくり賞」は、個人であれば10年以上といった一定期間の活動実績が要件となっていますが、該当する方がいらっしゃれば、年代に関わらず表彰しているところです。今後も庁内関係部局や関係機関に御協力いただき、候補者の掘り起こしに努めるとともに、ロールモデルとなる方と中高生や大学生等の交流の場を設けるなど、効果的な意識啓発に取り組んで参ります。(男女参画・人権課)</p>
<p>・男性育休制度の意義やメリットなどについて、令和4年度末に完成予定の事例集等を活用し、次世代育成・青少年課等と連携しながら啓発して参ります。</p> <p>・県内企業における男性育休取得率について、国と同じ30%を、「徳島県男女共同参画基本計画(第5次)」の目標値として検討しております。</p> <p>・現状把握については、令和5年度に、県内企業を対象とした調査を実施予定です。結果については、関係機関と共有しながら、県全体で男性育休取得を促進して参ります。</p> <p>・「テレワーク講座」等、休暇中の学びにも御活用いただける講座の情報を、はぐくみ支援企業等に発信します。</p>
<p>・令和5年度「とくしまスマートワークプロジェクト」で実施する「テレワーク講座」において、「キャリアアップを目指す方」を対象とした内容を組み込む予定です。「テレワーク講座」は、就業中の方でも、オンデマンド等で個人のレベルやニーズに合わせて、単発でも受講できる仕組みとなっております。企業のリスキリングにも御活用いただけるよう、周知広報に努めて参ります。</p>
<p>・「テレワークdeはぐくみ支援表彰」は、引き続き実施することとし、社員アンケートによる幸福度調査等も、表彰応募企業から提出があれば、審査に反映して参りたいと考えております。応募書類の例として記載いたします。</p> <p>・事業の中で実施しているアンケート調査において、生産性について把握し、結果をホームページに掲載するとともに、その他のメリットについても、好事例として発信して参ります。</p> <p>・デジタル化について、専門家派遣や研修の実施などにより、ソフト面の支援を行うとともに、ハード面についても、国補助金の情報提供等を行って参ります。</p>

<p>・いただいた御意見を関係課と共有しながら、連携して計画を推進して参ります。</p>
<p>・より早い段階からの意識啓発は、非常に重要と考えております。令和4年度に作成した動画を活用し、教育委員会等と連携しながら、アンコンシャス・バイアス解消への取組を進めて参ります。(男女参画・人権課)</p> <p>・令和5年度の「働くパパママ」就業促進事業の中で、働く女性のロールモデルを事例集に取りまとめたいと考えております。いただいた御意見を参考にしながら進めて参ります。</p>
<p>・いただいた御意見を参考に、より効果的な情報発信や開催方法等について、検討を行って参ります。(次世代育成・青少年課)</p>